

健幸都市くさつの推進に向けて

～草津市健幸都市基本計画の
令和2年度および令和3年度の主な取組について～

令和3年7月29日
草津市



草津市健幸都市宣言および草津市健幸都市基本計画の策定について

本市では、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行い、だれもが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる健幸都市づくりを推進するため、平成29年3月に「草津市健幸都市基本計画」を策定いたしました。

草津市健幸都市宣言

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること
これはわたしたち共通の願いです
心身の健康には 自分の状態を知ること 適度な運動と休養
バランスのとれた食事など 一人ひとりの取組が大切です
美しい自然や 住みやすい都市環境も大切です
そして ともに住む人と人との絆や協働も大切です
くさつは いにしえから 東海道と中山道がまじわる交通の要衝
宿場町として栄えてきました
人と人が出会い 心と体を休め 旅の疲れを癒してきました
琵琶湖・田園などの豊かな自然環境もあり
そこから得られる 恵みも豊富です
今を生きるわたしたちも この地で 出会いと自然に感謝しながら
住み続け 訪れることで 健幸になれるまちを
ともに創造していきましょう
草津市は 生涯にわたって 一人ひとりが自らの健康を大切にし
ともに支え合い ここに暮らすことによって
絆や喜びが生まれ 幸せが感じられる
笑顔あふれるまちを目指して
ここに「健幸都市くさつ」を宣言します。
平成28年8月28日 草津市長 橋川 渉

草津市健幸都市基本計画

- 「第5次草津市総合計画」を上位計画とし各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していく計画です。
- 「草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本計画においても「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、健幸づくりの取組を定めています。
- 【計画期間】平成29年度から令和4年度までの6年間です。



健幸都市基本計画の体系



草津市健幸都市基本計画

基本方針
基本施策

《まちの健幸づくり》

- (1) 出かけたくなるまちづくり
- (2) 交流機会や健康拠点の充実

《ひとの健幸づくり》

- (1) 地域の主体的な健康づくりの推進
- (2) 個人の健康づくりの推進

《しごとの健幸づくり》

- (1) 地域産業と連携した健康産業の活性化
- (2) 大学・企業等との連携

各施策ごとの主な取組と進捗状況

①コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定

⇒草津市立地適正化計画、草津市地域公共交通網形成計画を策定(H30)

②草津市バリアフリー基本構想の推進

⇒草津駅・南草津駅周辺を重点整備地区としてバリアフリー化事業を実施

③たばこ対策の推進

⇒閉鎖型喫煙所を整備(R2)

④草津市版地域再生計画の策定

⇒草津市版地域再生計画を策定(H30)、地域別プランの作成・推進(R1～)

⑤市民総合交流センターの整備

⇒供用開始(R3.5月)

⑥草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

⇒各種イベント開催(H29～)

⑦児童公園等の再整備

⇒施設改修・遊具更新(H29～)

など

①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進

⇒地区別の健康データの分析・取組推進(H30～)

②地域包括ケアシステムの推進

⇒在宅医療・介護連携の推進、認知症に関する啓発、介護予防・日常生活支援サービス事業等を展開(H29～)

③福祉の総合的な相談体制の強化

⇒福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において多様で複合的な悩みなどの相談支援を行っている。

④働く世代の健康増進

⇒協会けんぽ等と連携した集団健診の実施、特定健診会場でのがん検診実施(H29～)

⑤健幸ウォークの開催

⇒くさつランフェスティバル開催(R3)

⑥中学校給食の実施

⇒中学校給食開始(R3年度3学期)

など

①「ピワイチ」の推進

⇒ピワイチ観光推進のため、イベントの開催やサイクリストの受入環境を整備(H29～)

②草津ブランドの構築・PR

⇒草津あおばな企画展を開催(R2)

③企業版健幸宣言の推進と企業連携

⇒健幸都市宣言賛同事業所数：214か所(R2)

④健幸都市くさつの啓発

⇒シンポジウムや健幸フェア等のイベントを実施(H29～)

⑤アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

⇒健幸都市づくりに関係するテーマについてのセミナー等および社会実験事前調査事業を実施(H29～)

など

《まちの健幸づくり》主な取組

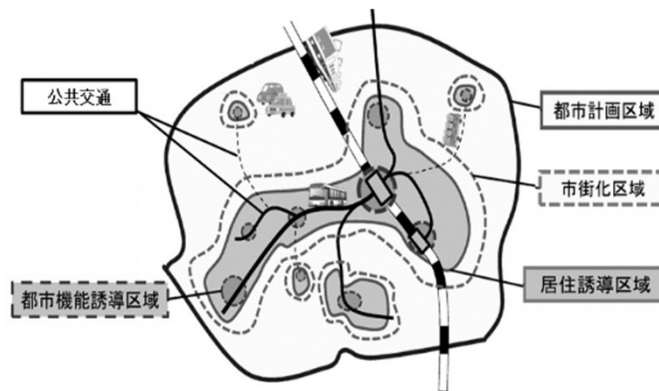
①コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定 【都市計画課・交通政策課】

(施策の内容:歩いて暮らせるまちづくり)

全国では、高齢化・人口減少が進む中で、地域活力の維持や医療・福祉・商業等の生活機能の確保を行うとともに、みんなが安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める「コンパクト・プラス・ネットワーク」が進められています。

本市においても、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるよう、将来を見据えた都市機能をマネジメントします。

※「コンパクト・プラス・ネットワーク」イメージ



R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの理念を反映した次期都市計画マスタープランの策定を進めました。 ○ コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画である草津市立地適正化計画およびまちづくりの実現に向けた届出制度について、周知を行いました。 ○ 草津市地域公共交通網形成計画に基づき、地域の特性に応じた具体的な施策(まめタク実証運行、まめバス新規路線、まめバス既存路線の再編)を検討し、各施策の実施に向け協議しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 窓口や電話等による問い合わせにて、草津市立地適正化計画およびまちづくりの実現に向けた届出制度について周知を行うことで、「歩いて暮らせるまちづくり」に寄与しました。 ○ 引き続き区域への誘導をはかる届出制度を事業者等へ周知することが重要です。 ○ 市民(地域)・事業者・行政の三者の協働・強化連携を図りながら、持続可能な公共交通ネットワークを構築し、地域活力の維持・活性化を図る必要があります。
R 3	計画	<p>(予算額:4,347千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度中の公表に向けて、引き続き次期都市計画マスタープランの策定を進めます。 ○ 草津市立地適正化計画およびまちづくりの実現に向けた届出制度について引き続き周知を行い、持続可能な集約型の都市づくりを推進します。 ○ 草津市地域公共交通網形成計画に基づき、地域の特性に応じた具体的な施策を検討し、各施策の実施に向け取り組みます。

《まちの健幸づくり》主な取組

②草津市バリアフリー基本構想の推進【交通政策課・道路課】

(施策の内容:安全・安心に配慮した公共空間の整備)

市民の誰もが自由に移動できる環境を創造し、公共スペースのバリアフリー化と歩行者の安全確保を目指して策定した草津市バリアフリー基本構想の推進を図ります。

「すべての人が心地よく移動できるまち“草津”」を基本理念とし、事業を「短期」「中期」「長期」に分け、「草津駅周辺」および「南草津駅周辺」の2地区を重点整備地区として設定し、重点的にバリアフリー化事業を実施します。



▲令和2年度整備場所(草津駅付近)

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none">○ 草津市バリアフリー基本構想に基づき、草津駅周辺の市道の歩道について、視覚障害者用の点字ブロックの設置や段差解消、勾配改善等の改良工事を実施しました。○ 草津市バリアフリー基本構想の重点整備地区内での事業整備の進捗管理を行いました。
	評価 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none">○ 草津市バリアフリー基本構想に基づく計画路線の整備を実施し、「安全・安心に配慮した公共空間の整備」のため、一定の成果をあげました。○ 重点整備地区内において整備ができていない箇所について、引き続き整備が必要です。
R 3	計画	<p>(予算額: 7, 000千円)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 草津市バリアフリー基本構想に基づき、重点整備地区におけるバリアフリー化の整備を推進します。○ 草津市バリアフリー基本構想の重点整備地区での事業整備の進捗管理を行います。

《まちの健幸づくり》主な取組

③たばこ対策の推進 【生活安心課・健康増進課・子育て相談センター】

(施策の内容:安全・安心に配慮した公共空間の整備)

草津市では、草津市路上喫煙の防止に関する条例に基づき、平成20年12月1日より、草津駅および南草津駅周辺を「路上喫煙禁止区域」として指定し、平成28年9月1日には、路上喫煙禁止区域を拡大しています。

今後、国のたばこ法制の動向やたばこ対策の強化の状況を見据えながら、公共空間の受動喫煙防止対策の強化を進めます。



R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 路上喫煙禁止区域内の啓発活動を年150日(午前・午後、合計300回)実施しました。 ▲閉鎖型喫煙所(草津駅東口) ○ マナースペースの実態調査を行いました(4月、11月、2月、3月)。 ○ 新たなマナースペースとして閉鎖型喫煙所を整備しました(草津駅東口、南草津駅東西口、計3箇所)。 ○ 整備適地の確保が困難なため閉鎖型喫煙所の整備を断念した草津駅西口では、開放型喫煙所を廃止しました。 ○ 「世界禁煙デー」「禁煙週間」に合わせて、健幸都市宣言賛同事業所に対して啓発を行いました。 ○ 南草津駅や草津市役所市民課前のデジタルサイネージを用いて、受動喫煙防止の啓発を行いました。 ○ 妊娠届出時や乳幼児健診等の機会に、喫煙や受動喫煙の防止についてチラシ等で普及・啓発を行いました。
	評価 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 路上喫煙禁止区域内での啓発活動により、喫煙者へ直接、喫煙マナーについて啓発をすることができました。 ○ 草津駅東口および南草津駅東西口の路上喫煙禁止区域内に閉鎖型喫煙所を整備したことで、より一層の受動喫煙防止対策を講じることができました。 ○ 実態調査の状況等を踏まえ、喫煙マナーの向上と路上喫煙の防止に関する継続的な啓発を行う必要があります。 ○ 閉鎖型喫煙所の整備を断念した草津駅西口周辺について、引き続き調査・検討する必要があります。 ○ 健幸都市宣言賛同事業所のつながりを活用し、広く周知することができました。
R 3	計画	<p>(予算額:8,635千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 路上喫煙禁止区域内での喫煙防止啓発を実施します。 ○ マナースペースの実態調査や歩行者に占める喫煙者の割合の調査を行い、路上喫煙率の把握に努めます。 ○ 禁煙しようとする市民を支援します。 ○ 喫煙や受動喫煙等の防止について普及・啓発を行います。

《まちの健幸づくり》主な取組

④草津市版地域再生計画の策定【都市計画課】

(施策の内容:賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり)

郊外部における地域の活性化を図るため、平成30年10月に草津市版地域再生計画を策定しました。
今後の超高齢化・人口減少社会を見据え、持続可能なまちづくりを目指します。

R2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各地域の住民とワークショップや検討会議にて議論を重ね、笠縫学区・志津学区については、地域別のプランを作成し、令和3年3月に公表しました。 ○ すでに地域別のプランを作成されている常盤学区・山田学区については、プランに基づき各施策を推進しました。 ○ 地域再生推進委員会を3回開催し、関係部局との連携を図りました。 ○ 地域再生推進協議会を2回開催し、地域別のプランについて議論を行うとともに、地域間の情報共有を図りました。 ○ 山田学区では若手住民を中心に専門家を招いてワークショップを5回開催し、意見をとりまとめました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 笠縫学区と志津学区については地域別のプランを作成し、また既に地域別のプランを作成されている常盤学区・山田学区については、プランに基づき各施策を推進するなど、持続可能なまちづくりを推進することができました。 ○ 地域で生活するすべての人が、便利に、快適に、健幸に暮らし続けることができる持続可能なまちづくりを目指して、各地域の地域再生に対する機運向上・継続について、引き続き支援する必要があります。
R3	計画	<p>(予算額:3,111千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 草津市版地域再生計画に基づき、各学区のまちづくりプランを作成し、当該プランに示された具体的な取組を進め、地域振興を図ります。



《まちの健幸づくり》主な取組

⑤市民総合交流センターの整備 【まちづくり協働課】

(施策の内容: 交流機会の充実)

草津駅周辺の各公共施設の老朽化が著しく、耐震補強等の改修工事が必要であったことから、公共施設の機能を集積した「中心市街地活性化のコア施設」として、令和3年5月に市民総合交流センター「キラリエ草津」をオープンしました。

中心市街地に人、モノ、情報が交流する施設を整備し、地域の振興やまちの賑わいを創出するとともに、「子育て支援のための空間」や「多世代交流のための空間」等の新たな機能も加えて、全世代が集い、創出的で多様な活動を展開できる魅力ある都市福利施設を目指します。

子育て支援拠点施設「ココクル♥ひろば」、人権センター、商工会議所、社会福祉協議会、コミュニティ事業団、男女共同参画センター など
 ※4階の交流スペースに健幸ステーションを設置



▲市民総合交流センター

R2	実績	○ 令和3年3月に市民総合交流センター(キラリエ草津)を竣工し、供用開始に向けて、入居者および指定管理者と運営方法などの検討を行いました。
	評価・課題	○ 計画通りに施設が竣工し、新たな市民公益活動の拠点が設置できました。 ○ 今後は市民の交流や公益活動の活性化につながる取組が求められます。
R3	計画	(予算額:83,307千円) ※市民総合交流センター管理運営 ○ 様々な団体が入居する複合施設の強みを生かし、市民と行政が、互いに交流・協働することにより、社会的、公益的なまちづくり活動を推進するとともに、各入居団体の連携を図り、多様な市民活動の展開を支援します。

《まちの健幸づくり》主な取組

⑥草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施 【健康福祉政策課・都市再生課】

(施策の内容:健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

イベントの実施を検討し、草津川跡地公園が普段使いの身近な健康拠点となるような取組を進めます。

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11月21日(土)・22日(日)に「アソビのバ」として、卓球台や大きな積み木等の公園内で使える遊具や、人工芝を設置することで人が集い、秋の公園を楽しめるイベントを行いました。 ※健幸フェアやクサツコーヒーフェス、クサツアウトドアフェス等を企画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画どおりにイベント開催することができませんでしたが、少ない回数でも実施することにより、中心市街地エリアの賑わい創出に寄与するとともに、健幸に対する機運の向上が図られました。 ○ コロナ禍において、不特定多数を対象としたイベントの開催方法の検討が必要です。
R 3	計画	<p>(予算額:7,035千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日ごろ運動をしていない方でも気軽にはじめられ、幅広い層の市民がとりくみやすい体験イベントや、食も含めた健康づくりのきっかけとなるイベントを実施します。



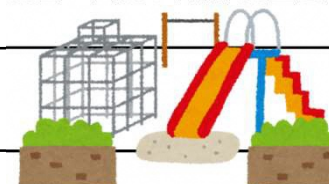
▲アソビのバ

⑦児童公園等の再整備 【公園緑地課】

(施策の内容:健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

設置後相当年数が経過した児童公園等を対象として、地元の意見を聴きながら、外遊びやボール遊び、大人の健康づくりなど、地域のニーズに応じた公園になるようリニューアルを進めます。

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康づくりの市民の憩いの場として設置後相当年数が経過した児童公園等を対象に、再整備工事を実施しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11箇所の公園について、施設改修や表土の入替、健康遊具の設置など再整備工事を実施することができました。 (矢橋公園、新浜尺迦野第二児童遊園、新浜尺迦野第三児童遊園、鳩ヶ森・よし池児童遊園、師子舞谷児童公園、山寺瀬畑児童遊園、草津駒坂児童遊園、新堂公園、西矢倉松塚第二児童遊園、上笠公園、はさま公園)
R 3	計画	<p>(予算額:17,485千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の意見を聴きながら、再整備に向けた取組や健康遊具の設置を進めます。



《ひとの健幸づくり》主な取組

①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進 【地域保健課・保険年金課・健康福祉政策課】

(施策の内容: 地域の特性に応じた健康づくり)

各まちづくり協議会と市が協働して、地域の特性を踏まえた健康づくりに取り組む仕組みづくりを進めます。

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの学区で健康づくりの取組が中止や延期、縮小となりましたが、各まちづくり協議会と連携しながら健診受診率の向上や生活習慣病の発症予防に向けた取組を進めました。 ○ 新たに常盤と渋川のまちづくりセンターで集団健診を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、常盤のみの実施となり、受診者は14人でした。 ○ 各まちづくりセンターに健幸ステーションを設置しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も地域と協働して地域の特性や課題に応じた健康づくりの取組を計画的に進めていく必要があります。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全体の健診受診率が低下しています。今後も、地域ごとの受診率を分析し、集団健診の会場を検討していく必要があります。また、定員に達していない会場では、地域ごとの効果的な受診勧奨を検討していく必要があります。 ○ 市民に身近な各まちづくりセンターに健幸ステーションを設置することで、市民の健康づくりに貢献することができました。
R 3	計画	<p>(予算額: 4,432千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の健康特性や課題について各まちづくり協議会と共有を図り、健診受診率の向上や生活習慣病の発症予防に向けた地域の主体的な健康づくりを推進します。 ○ 被用者保険と連携し、8月から11月にかけて合計8回(国保被保険者の1回あたり定員50人)の集団けん診を共同実施します。働く世代の受診率向上につながるよう、土曜日にも実施日を設けます。

■各まちづくり協議会の健幸宣言(平成28年8月28日)

- ち** <健康意識の高揚>
ちいきのみんなが健康への理解を深め、健康と幸せの輪を広げます！
- い** <生活習慣の改善>
いつまでも健やかで幸せな生活が送れるよう生活習慣の改善に努めます！
- き** <生活習慣病等の発症予防>
きっちり健康管理をおこない健康診断の大切さを訴えていきます！
- か** <栄養・食生活>
カロリー等、バランスのとれた食生活を心がけます！
- ら** <身体活動・運動>
らくらく体を動かして、地域の運動習慣を広めていきます！



▲健幸都市くさつキックオフシンポジウム(H28)にて

《ひとの健幸づくり》主な取組

②地域包括ケアシステムの推進 【長寿いきがい課・地域保健課】

(施策の内容: 支え合いのコミュニティづくり)

地域で安心して医療・介護サービスを受けることのできる基盤づくりとしての医療・介護連携の推進、関係機関と連携した認知症施策の推進を図るとともに、介護予防・生活支援サービスや介護サービスの充実を図ります。

また、介護予防・日常生活支援総合事業においても、機能回復訓練等の高齢者本人へのアプローチだけではなく、いきいき百歳体操や地域サロンといった、要介護度等によって区別されない住民運営の通りの場の充実など、高齢者本人を取り巻く環境づくりを進めていきます。



R2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療と介護の両方を必要とする高齢者が人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医師や多職種の協力連携体制を強化するための拠点として「草津市在宅医療・介護連携センター」を開設しました。 ○ 「草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」を制定しました。また、草津市認知症高齢者等見守りネットワークへの事前登録を前提に、市が加入する「認知症高齢者等個人賠償責任保険」により、日常生活における偶然な事故の相手方への損害賠償を補償する制度を創設しました。 ○ 支援を必要とする高齢者の個々の状態にあったサービスの提供に努めるとともに、住民等多様な主体が参画し、地域の支えあい、助け合いの体制づくりをすすめられるよう支援しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師や多職種の専門職からの相談が増加し、在宅医療と介護を一体的に提供する連携体制の強化が図られました。 ○ 誰もが認知症を「我が事」として受止め、認知症の人やその家族を地域社会全体で見守り支える必要があります。 ○ 認知症の人やその家族が安心して外出し、地域で暮らし続けることができるよう、支援制度の充実が図られました。 ○ コロナ禍に伴う、高齢者の外出機会の減少により、生活機能の低下やフレイル状態が進むことを防止するため、感染予防対策を図りつつ、身近な地域で社会参加・つながりを通じた介護予防活動ができるよう支援を継続する必要があります。
R3	計画	<p>(予算額: 436,762千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度に策定した草津あんしんいきいきプラン第8期計画に掲げる基本目標「地域包括ケアシステムの深化・推進」に資する以下の基本施策に関する取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアネットワークの構築 ・助け合い・支え合い活動の充実 ・在宅医療・介護連携の推進 ・地域包括支援センターの機能強化

《ひとの健幸づくり》主な取組

③福祉の総合的な相談体制の強化 【人とくらしのサポートセンター】

(施策の内容: 全世代に共通した健康づくり)

多様で複合的な課題を抱える生活困窮者を支援するためには、各自治体における包括的で分野横断的な取組が不可欠とされており、草津市では「人とくらしのサポートセンター」を開設して対応してきました。

より多様化、複雑化する福祉ニーズに対応できるよう、今後、生活困窮者に限らず複合的な課題を抱えた人たちへの対応を行うため、福祉の総合的な相談体制の強化について検討を進めます。



R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、多様で複合的な悩みなどの相談支援を行い、庁内関係課や外部団体との連携を図るため運営会議を開催するとともに、ホームページや広報くさつへの掲載等により周知を図りました。 ○ 生活困窮者自立支援事業では、自立相談支援や住居確保給付金、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計改善支援事業、子どもの学習支援事業等の事業に取り組みました。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮により、多くの市民が支援を求め来相され、住居確保給付金制度の適用や社会福祉協議会の特例貸付を紹介するなど支援を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・人とくらしのサポートセンター 総相談件数 1,079件(生活困窮者自立相談 1,027件、総合相談 52件) ・住居確保給付金 186件(延長、再延長、再々延長含む) ・就労準備支援事業 9件 ・一時生活支援事業 8件 ・家計改善事業 13件 ・子どもの学習支援事業 3件 <p style="text-align: right;">※すべて実件数</p>
	評価 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮により多くの市民が支援を求め来相され、令和2年度の総相談件数(1,079件)は、令和元年度の総相談件数(297件)に比して4倍以上と大幅に増加したことから、「人とくらしのサポートセンター」について一定の周知が図れ、支援に繋げる機会が増大しました。 ○ 多様で複合的な悩みの相談に対しては、今後も生活困窮者自立支援事業を効果的に活用し支援の充実を図るとともに、支援関係機関と連携を密にし、ニーズに応じた支援ができるよう、継続し相談体制を強化していく必要があります。
R 3	計画	<p>(予算額:34,375千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、生活困窮者を含む多様な課題について相談を受けるとともに関係機関との連携を密にし、必要な支援に繋がります。

《ひとの健幸づくり》主な取組

④働く世代の健康増進 【健康福祉政策課・健康増進課・保険年金課】

(施策の内容:ライフステージに応じた健康づくり)

市の企業・団体版健幸宣言の実施やそれに基づく取組の推進を図るとともに、他の保険者等との連携により、働く世代の健康増進対策を強化します。



R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関にてがん検診等各種けん診を、さわやか保健センターにて胃がん検診(X線検査)を実施しました。 ○ 国民健康保険加入者の健診については、集団健診を協会けんぽや他の被用者保険と合同で6回、市単独で1回、計7回実施し、154人が受診しました。また、受診券送付時に集団健診案内チラシを同封したほか、未受診者への個別勧奨において集団健診の受診案内を行いました。 <p>※特定健診会場での同時実施によるがん検診の種類を増やし受診機会を拡大する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。「食と運動のからだまるごとほかるデー」等市民参加型のイベントもすべて中止しました。</p>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、特定健診会場でのがん検診の同時実施や個別勧奨・再勧奨を中止し、全体的に受診者数も減少しました。生活習慣病の予防およびがんの早期発見・早期治療に向けて周知・啓発を行なっていく必要があります。 ○ 多くの市民が1つの場所に参加するイベント等での健康づくりの啓発活動をするのではなく、新しい生活様式に応じた事業を展開していく必要があります。 ○ 国民健康保険加入者の健診についても新型コロナウイルス感染症の影響により受診者数は減少していますが、未受診者への勧奨通知に集団健診を案内した結果、一時的ですが増加した月もみられました。
R 3	計画	<p>(予算額:139,122千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関での個別けん診だけでなく、特定健診会場での集団けん診において、胃がん(X線)検診、肺がん・結核検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検診、プレ特定健診を同時実施し、受診機会の拡大を図ります。 ○ 「くさつ運動チャレンジ」として、スポーツジム等と行政が連携し、若い年代や働き世代の運動習慣の定着を目指して、手頃な価格の体験コース等で自宅や自身でできる運動等の紹介を実施します。市がスポーツジム等の場所や施設概要等を掲載した「運動チャレンジマップ」を作成し、市内に周知する事業を展開します。 ○ 国民健康保険加入者に対しては、引き続き被用者保険との連携による集団けん診を実施します。

《ひとの健幸づくり》主な取組

⑤ 健幸ウオークの開催 【スポーツ保健課】

(施策の内容: 全世代に共通した健康づくり)

スポーツを生涯にわたって取り組むためには、ライフステージに応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができる機会の充実を図ることが必要です。

R2	実績	○ R2年度から、健幸ウオークにかわり「くさつランフェスティバル」を健幸都市くさつランフェスティバル実行委員会と連携して開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。
	評価・課題	○ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したイベントの実施方法の検討が必要です。
R3	計画	(予算額: 2,000千円) ○ 誰もが気軽に参加でき楽しめる「健幸都市くさつランフェスティバル」の開催に向け、民間事業者主体で構成する「健幸都市くさつランフェスティバル実行委員会」に対して支援を行います。



⑥ 中学校給食の実施 【教育総務課】

(施策の内容: ライフステージに応じた健康づくり)

「草津市中学校給食実施基本計画」に基づき、中学校給食の実施に向けた取組を推進します。

R2	実績	○ (仮称)草津市第二中学校給食センターの造成工事や建設工事、老上中学校他3校の配膳室の増築工事、および草津市中学校給食推進懇話会を行いました。 ○ 「中学校給食調理・洗浄等業務」の委託業者の決定と契約締結を行いました。
	評価・課題	○ 令和2年度に予定していた事務事業は計画どおり進捗することができました。
R3	計画	(予算額: 1,284,560千円) ○ 「草津市中学校給食実施基本計画」に基づき、引き続き施設の建設工事を行い、令和3年度3学期から給食センター方式による中学校給食の提供を開始します。



▲(仮称)草津市第二給食センター イメージ図

《しごとの健幸づくり》主な取組

①「ビワイチ」の推進 【商工観光労政課】

(施策の内容:ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援)

県や関係市と連携し「ビワイチ」観光を推進するため、自転車関連イベントの開催や、サイクリストの受入環境整備を進めます。

R2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイクリスト誘客に向け、サイクリングイベントの実施に向け検討をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催を中止しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県や関係市町と連携し、広域的な視点で事業を展開していくことが課題です。 ○ 地方創生補助金交付期間である令和3年から令和5年の間に予算額の補助金負担割合を軽減できるよう、集客および事業の効率化に注力し、参加費や協賛金の拡大を目指す必要があります。
R3	計画	<p>(予算額:3,600千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サイクリストの誘客ならびにリピーターの確保、地域資源の再発見、地域経済の活性化、自転車の安全な利用促進を目的に「ビワイチ観光推進事業」を展開します。

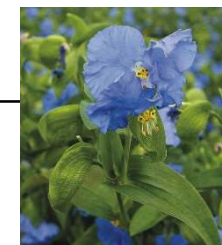


②草津ブランドの構築・PR 【農林水産課・商工観光労政課】

(施策の内容:特産物を活かした健康な食等の推進)

草津ブランドを地域で育て、地産地消につなげることで地域産業の活性化や草津市のイメージアップを図り、全国に誇れるブランドへと育てていきます。

R2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津ブランドを広く市民に周知するため、アル・プラザ草津にて草津ブランド市を開催しました(3月20日・21日開催)。 ○ SNSでの情報発信や草津ブランドのパネル展示、びわ湖放送の番組での草津ブランド特集、市内小学校での出前授業など、草津ブランドのPRを行いました。 ○ 新たな取組として、草津あおばな企画展を水生植物公園みずの森や市役所で開催しました。 ○ 市内小学校で出前授業を行うことにより、草津あおばなの啓発に努めました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響でイベント関係は中止や規模縮小となり、イベントでのPRの場が大幅に減少しましたが、代わりにパネル展示や各種メディアに取り上げていただく機会があり、いつもとは異なる形で広く草津ブランドをPRすることができました。 ○ 草津あおばなフェスタは中止となりましたが、企画展の開催やえふえむ草津への出演、観光誌への掲載拡大など新たなPRを試みました。
R3	計画	<p>(予算額:5,279千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 草津ブランドとして認証を受けている草津産農産物(ベジクサ)や加工品・工芸品をより多くの市民に知ってもらうため、PRイベントやSNSによる情報発信、農商連携の促進に向けた取組を実施します。



▲草津あおばな

《しごとの健幸づくり》主な取組

③企業版健幸宣言の推進と企業連携 【健康福祉政策課】

(施策の内容: 産学公民連携とその仕組みづくり)

草津市が一丸となって健幸都市づくりを進めるため、健幸都市宣言に賛同いただける企業や団体、また健幸づくりの取組に関する宣言を行っていただける企業や団体の募集を継続するとともに、当該企業や団体の優れた取組を公表・PRする機会を設けます。

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合計214か所(前年比14増)【まちづくり協議会の健幸宣言:14学区、健幸宣言事業所:59か所 健幸宣言賛同事業所:141か所】 ○ 7月に全庁の推進員が人権啓発の事業所啓発と併せて賛同企業の募集を行いました。 ○ (株)伊藤園と健幸都市づくりに関する協定を締結しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な方法で募集をし、多くの事業所に賛同してもらうことができました。 ○ 賛同事業所を今後どのように健幸都市づくりに巻き込んでいくかが課題です。
R 3	計画	<p>(予算額:0円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所への人権啓発の際に募集を行い、引き続き賛同事業所の増加を目指します。 ○ 健幸都市づくり情報をメール等で提供し、賛同事業所と一丸となって健幸都市づくりに取り組みます。 ○ (株)伊藤園との協定に基づき、健幸自販機を市役所とキラリエ草津に設置しました。

④健幸都市くさつの啓発 【健康福祉政策課】

(施策の内容: 健康に関する情報提供)

様々な機会を通して「健幸都市くさつ」の普及啓発を進めます。

R 2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市庁舎の2階、4階、5階、6階の廊下に身長別歩幅を表示しました。 ○ 啓発チラシを4,000枚、ミニのぼりを200枚製作し、庁内各課や庁外施設に配布しました。 <p>※草津川跡地公園de愛ひろばにて健幸イベントを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響をうけ中止となりました。</p>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各階のエレベーターホール横の通路や、隣接する保健センターとの連絡通路付近など、職員や来庁者が気付きやすい場所に身長別歩幅表示を設置することで、健幸づくりの意識を啓発することができました。 ○ 啓発チラシ・ミニのぼりの製作により、健幸都市くさつの啓発を推進することができました。 ○ 今後は、より効果的な手法を模索していく必要があります。
R 3	計画	<p>(予算額:414千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 啓発横断幕や公用車を利用した「健幸都市くさつ」の広報・啓発を行います。



▲身長別歩幅表示



▲ミニのぼり

《しごとの健幸づくり》主な取組

⑤アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用 【草津未来研究所・健康福祉政策課】 (施策の内容:産学公民連携とその仕組みづくり)

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)は、産学公民が対等な立場で、草津の未来について気軽に自由に語り合う場所です。交流・学習会や調査研究、社会実験の実施により、未来のまちのイメージを創造し、新たな活動につなげていきます。

R2	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ アーバンデザインスクール：「これからの健幸都市に向けて～with/afterコロナのまちづくり～」をテーマに、新型コロナウイルス感染症をきっかけとして生じた新しい時代において、どのようなまちづくりを行っていくべきかについて学び、健幸都市づくりにつながるスクールを計5回実施し、延べ89人に参加いただきました。 ○ アーバンデザインセミナー：未来の草津市を考える上で必要となる要素として、健幸都市づくりをテーマに含んだセミナーを計12回実施し、延べ307人に参加いただきました。 ○ 社会実験準備事業等：健幸都市づくりに関係するテーマを設定し、包括協定締結大学を対象に調査を募集し、立命館大学、滋賀大学とともに6つのプロジェクトを実施しました。 ○ 健康づくりに資するウォークアブルなまちづくりの推進を含む「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)」の策定にあたり、都市計画部と連携して、地域住民の代表者や学識経験者、民間事業者の代表者、公募市民で構成する「草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会」を開催しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産学公民連携の促進を通じて、各種事業で健幸都市づくりについて考えを深めてもらうことができましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ほとんどがオンラインでの開催となったため、参加者同士の議論の機会が少なくなりました。 ○ 事業の課題として、セミナー等の参加者の広がりをもたせるため、新しい発想を取り入れた事業や産学公民をつなぐUDCBKの強みを生かした取組をさらに展開していく必要があります。
R3	計画	<p>(予算額:1,828千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 草津の未来を考える産学公民のプラットフォームとしてUDCBKの機能を高め、アーバンデザインスクール、アーバンデザインセミナー、社会実験準備事業等を実施します。 ○ 都市計画部と連携して、南草津ビジョンの案についてパブリックコメントを実施し、南草津ビジョンを策定し推進します。